

# H1

## 時代による悪役の変化

上村 美波

### 要旨

様々な文学作品、及び映像作品に登場する悪役と作品が制作された時代との関係性を調べた。また、そこで得られた情報からこれからの社会で求められる悪役像について考察した。

### 1 目的

悪役の成立には作品が制作された時代の要素が関わっているのではないか。当研究では悪役と時代との関係性、またそこから現代作品で必要とされる悪役の特徴を明らかにすることとする。

### 2 方法

- ・3つの作品を鑑賞し、悪役の特徴と、時代背景とを照らし合わせ、関係性を探る
  - ・悪役としての分類をする
  - ・これから時代に求められる悪役を考える。
- ※ 本研究では悪役を、アメリカ英語辞典で引いた際の、「a bad person who harms other people or breaks the law」または「a criminal」と定義する。

### 3 作品紹介

#### ①. 小説シャーロックホームズ『最後の事件』

ヒーロー：シャーロック 悪役：モリアーティ  
時代：1887～1927年  
内容：顧問探偵のシャーロック・ホームズ（以後ホームズ（小説）と呼称）がジョン・ワトソンと共に19世紀ロンドンで起こる事件を解決していく推理小説。

#### ②. ドラマ SHERLOCK『ライヘンバッハ・ヒーロー』

ヒーロー：シャーロック 悪役：モリアーティ  
時代：2010年～  
内容：自称コンサルタント探偵であるシャーロック・ホームズ（以後ホームズ（ドラマ）と呼称）がジョン・ワトソンと共に現代のイギリスで事件を解決する様を描く。

#### ③. 映画『JOKER』

ヒーロー：作中なし 悪役：ジョーカー  
時代：2019年  
内容：ヒーロー映画『バットマン』の悪役であるジョーカーの誕生の経緯が描かれている。

### 4 仮説

- ①悪役と時代背景には関係がある。

②悪役の分類ができる

③これから主流なのは完璧な悪役である

### 5 結果

#### 【仮説①について】

##### ①ジェームズ・モリアーティと19世紀ロンドン

19世紀ロンドンは再開発地域の開業と産業革命の開始により、人口過密状態となり、貧困層の人口も増大した。そのため、ロンドンは病気と犯罪の代名詞であった。

このことから、モリアーティ（小説）が巨大な犯罪組織を作ることで自らは手を汚さずに犯罪を行っていたことは当時の治安の悪さ、モリアーティ（小説）の本性がホームズ（小説）にしか見抜けなかったことは信用できる人物であっても、裏では犯罪を犯しているかもしれない犯罪が常に隣にある混沌とした状態を表している

##### ②ジム・モリアーティと現代のイギリス

現代のイギリスは情報機器や技術が発展し、サイバー犯罪などが増えていることで、情報が人間を騙し、傷つける道具になっている。  
モリアーティ（ドラマ）はインターネットや情報機器を利用し、犯罪を犯す。これは情報機器や、インターネットの発展が背景にある。また、モリアーティ（ドラマ）は誤情報から発生した人間の不信感につながる。これは人々の情報に対する信頼や、それによって起こる危険を示している。

##### ③ジョーカーと現代のアメリカ

20世紀のアメリカは衛生状態が悪く、人々の心に余裕がない。また財政難が要因で富裕層と貧困層に軋轢が発生し、貧困層の人々の不満が蓄積している。

ジョーカーはカウンセリングを受けていたが、支援が打ち切られ、彼にとっての精神が安定できる場所がなくなった。これは、富裕層の行動や社会が社会的弱者のよりどころを奪っていることを示す。加えてジョーカーの殺人が貧困層の人々の富裕層への反抗の引き金となったことは貧困層と富裕層の人々の乖離を表し、正義や正しいことを行う難しさを示している。

### 【仮説②について】

#### タイプ1：観客が感情移入できない悪役

悪役：モリアーティ（小説）、（ドラマ）

特徴としては、モリアーティ（ドラマ）のように犯罪に快楽を求めるなど観客の感性や常識から外れた面を持っていること。また、モリアーティ（小説）のように小説内で強大な敵であると言及され、作品内で変化が起こることはない完成された人物であることが挙げられる。

#### タイプ2：観客が感情移入できる悪役

悪役：ジョーカー

特徴はジョーカーのように初めは観客と近い存在であることだ。また、犯罪を犯した際の葛藤があることも挙げられる。加えて、ジョーカーのように虐待を受け、精神病を発症したという悲劇的過去がある事も特徴である

## 6 考察

### 【仮説①について】

時代背景と悪役には治安の面が特に密接に関わっているのではないか。

### 【仮説②について】

悪役のタイプの違いは、観客とキャラクターの乖離が激しいか、そうでないかに大きく関係すると思われる。また、キャラクターに同情できる要素があることも関係があると思われる。

### 【仮説③について】

#### ①観客が感情移入できない悪役

感情移入できない悪役を用いることで、悪役を強大な敵として成立させ、ヒーロー側の成長を際立たせることができ、ヒーロー側の成長を印象付けられる。

また、特異な性格やルールを持たせることによって観客との乖離を広げることでヒーロー側と観客の距離を近くすることが出来る。

そして、悪人であることを認め、悪事を好んでいることを描いて勧善懲惡の物語を作り立たせている。

#### ②観客が感情移入できる悪役

感情移入できる悪役を用いて、悪事を働くことをためらう描写をすることで観客が悪役に親近感を持つことが出来る。

また、悪役側も進化（変化）を遂げることで

ヒーロー側だけでなく、悪役側にもドラマを求める観客に答えている。

過去には勧善懲惡の物語が多く、そのため感情移入できない悪役の存在が大きかった。しかし徐々に悪役にもストーリーを求める観客が増えてきたため、感情移入できる悪役が増えてきたのではないか。

また、現在の社会の問題を指摘するために創作された悪役も増えており、それらはこれからも増え続けていくのではないか。

## 7 結論

- ・悪役と、作品成立時の時代背景には関係性がある
  - ・悪役には大きく分けて二つタイプがあり、大まかに分類ができる
  - ・現在は最初から強大な存在なのではなく、成長や変化していく悪役が増えてきている
- ここから、仮説①②は正しく、③は異なることが分かった。

今回は三作品を使用したが、時代背景と悪役との関係づけに少し無理が出てしまうところがあったと感じた。次回の研究ではその部分をもう少し深く調べていきたいと思う。

## 8 参考文献

- ・コナン・ドイル（2010）『シャーロック・ホームズの帰還』 新潮社（新潮文庫） 2
- ・『SHERLOCK』（2012）英国放送協会
- ・『JOKER』（2029）DC フィルムズ、ヴィレッジ・ロードショー・ピクチャーズ、プロン・クリエイティブ、ジョイント・エフォート
- ・19世紀イギリスについて  
[https://www.yhistory.net/appendix/wh0601\\_114\\_1.html](https://www.yhistory.net/appendix/wh0601_114_1.html) (2021/2/2 アクセス)
- ・シャーロックホームズ年表  
[http://shworld.fan.coocan.jp/33nenndai/2007c\\_chronological.html](http://shworld.fan.coocan.jp/33nenndai/2007c_chronological.html) (2021/2/2 アクセス)